

登録コード	E4120900	開講年度	2026			
授業科目	発達・教育心理学概論A				担当教員	島田 英昭
英文授業名	Developmental and Educational Psychology A				副担当	
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	該当 備考
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	発達・教育心理学に関する基礎的な知識を得ることで、教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観を身につける。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	発達・教育心理学に関する基礎的な知識を得ることで、教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能を身につける。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、環境マインド実践人材養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース					
(4)授業の概要	オンライン・オンデマンドで実施する。発達・教育心理学に関する基礎的なトピックを解説する。【STEAM教育含む内容】					
(5)授業計画	第1回：ガイダンス、教育心理学の概要【遠隔等】 第2回：行動主義に基づく学習理論【遠隔等】 第3回：認知主義に基づく学習理論 1：記憶【遠隔等】 第4回：認知主義に基づく学習理論 2：メタ認知【遠隔等】 第5回：社会的構成主義に基づく学習理論【遠隔等】 第6回：自律的動機づけ【遠隔等】 第7回：原因帰属と動機づけ【遠隔等】 第8回：発達【遠隔等】 第9回：社会性【遠隔等】 第10回：感情【遠隔等】 第11回：記述統計【遠隔等】 【データサイエンス含む】 第12回：推測統計【遠隔等】 【データサイエンス含む】 第13回：知能とパーソナリティ【遠隔等】 第14回：教育評価【遠隔等】 【データサイエンス含む】 第15回：不適応と障害【遠隔等】					
	※授業の進め方についての注意事項 ○授業はオンライン・オンデマンド形式で、ビデオ等の資料の閲覧により行う。 ○受講時間は任意とするが、各回に締切を設ける。 ○受講者の関心や時事的な背景に応じて内容を変更することがある。 ○試験はオンライン・オンデマンドで行う。 ○教育実習等の教育学部必修に位置づけられる科目の履修を理由とした場合を含め、欠席は考慮しない。本授業はオンライン・オンデマンド形式であるため、各自でスケジュール調整を行い受講時間を確保する。 ○授業アンケートを実施する。					
	※授業に関するお願い ○授業で得られた学習データを、教育、研究、広報の目的で利用することがあります。データは匿名で扱います。学術論文等、外部で発表することがあります。了承できない場合には個別に連絡をお願いします。了承しないことによる成績への影響は一切ありません。 ○教育、研究、広報の目的で、ビデオ、写真撮影を行うことがあります。ビデオ、写真を外部に公表する可能性があります。了承できない場合には個別に連絡をお願いします。了承しないことによる成績への影響は一切ありません。 ○心理学関係の実験・調査への協力をお願いすることがあります。また、実験・調査に参加し結果を知ることの教育効果に対し、コースクレジットとして成績評価に参入することがあります。詳細は依頼時に説明します。依頼は拒否することが可能であり、参加しないことにより成績評価が不利になることがないように運用します。					
(6)成績評価の方法	●以下を総合して判定する。 講義・議論（30%）、試験（40%）、読書（30%） ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ※素得点に対して換算表（換算式）を用いて最終得点の調整を行うことがある。調整する場合には、調整方法を別途明示する。 ※発達・教育心理学に関する基礎的な知識を評価する。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(7)成績評価の基準	【卓越している】発達・教育心理学に関する基礎的な知識について、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】発達・教育心理学に関する基礎的な知識について、非常に高い水準にある。 【やや上にある】発達・教育心理学に関する基礎的な知識について、高い水準にある。					

(7)成績評価の基準	【その水準にある】発達・教育心理学に関する基礎的な知識について、一定水準にある。
(8)事前事後学習の内容	●講義について振り返りを行う。また、他者の振り返りに対してコメントする。 ●講義に関連する内容について、書籍やネットなどで復習し、理解を深める。 ●課題図書を読み、レポートを作成する。 ●この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。
(9)履修上の注意	eALPSを常時利用する。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	原則としてメールで対応する。連絡先はeALPSを参照する。
【教科書】	指定しない。資料を配付する。
【参考文献】	●杉山尚子 (2005). 行動分析学入門ーヒトの行動の思いがけない理由 集英社新書 ●奥田健次 (2012). メリットの法則ー行動分析学・実践編 集英社新書 ●犬塚美輪 (2025). 読めば分かるは当たり前？ー読解力の認知心理学 ちくまプリマー新書 ●高橋雅延 (2024). 記憶の深層ー〈ひらめき〉はどこから来るのか 岩波新書 ●今井むつみ (2024). 学力喪失ー認知科学による回復への道筋 岩波新書 ●三宮真智子 (2022). メタ認知ーあなたの頭はもっとよくなる 中公新書ラクレ ●外山美樹 (2021). 勉強する気はなぜ起こらないのか ちくまプリマー新書 ●安藤寿康 (2023). 教育は遺伝に勝てるか？ 朝日新書 ●奥村優子 (2025). 赤ちゃんは世界をどう学んでいくのかーヒトに備わる驚くべき能力 光文社新書 ●渡辺弥生 (2011). 子どもの「10歳の壁」とは何か？ー乗り越えるための発達心理学 光文社新書 ●篠原郁子 (2024). 子どものころは大人と育つーアタッチメント理論とメンタライジング 光文社新書 ●森口佑介 (2023). 10代の脳とうまくつきあうー非認知能力の大事な役割 ちくまプリマー新書 ●森口佑介 (2024). つくられる子どもの性差ー「女脳」「男脳」は存在しない 光文社新書 ●唐沢かおり (2025). 「気が利く」とはどういうことかー対人関係の心理学 ちくま新書 ●村山綾 (2023). 「心のクセ」に気づくにはー社会心理学から考える ちくまプリマー新書 ●トム・チヴァース、イヴィッド・チヴァース (2022). ニュースの数字をどう読むか ー統計にだまされないための22章 ちくま新書 ●小塩真司 (2020). 性格とは何か 中公新書 ●宮田雄吾 (2021). [新版]14歳からの精神医学ー心の病気ってなんだろう 日本評論社 ●本田秀夫 (2022). 学校の中の発達障害ー「多数派」「標準」「友達」に合わせられない子どもたち SB新書 ●川崎聡大 (2024). 発達障害の子どもに伝わることば SB新書